



認定NPO法人

くまがや小麦の会

since 2006

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

「移動販売車に乗って町にでかけよう」



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

目次

- p02 目次・小麦の会 製品のご案内
- p03 NPOが目指す共助の世界 日向美津江・小麦の会 特注品のご案内
- p04 NPO法人の社会的役割 辻 陽一郎・小麦の会 会員の皆様
- p05 移動販売車に乗って町に出かけよう 事業概要 事業計画 柱立て1
- p06-07 柱立て2
- p08 柱立て3~7
- p09 連携団体
- p10 アンケート
- p11 自己評価

小麦の会 製品のご案内

パウンドケーキ
1本 800円

シュトーレン
1本 800円

季節限定

パウンド・フォー・パウンド
1本 1,200円
ハーフ 600円
5個入り 700円
1個 140円

ブランデー、ラム酒に漬けたドライフルーツを3倍入れました。

くまサブレ
1枚 80円
5枚入り 400円

地粉の薫り高いプレーン味のサブレ

あつべえサブレ
1枚 80円
5枚入り 400円

黒ゴマの風味が利いた、サクサクと軽い食感のサブレ

くま・あつサブレセット
10枚入り 800円

ラグビーサブレ
プレーン・ココア
1枚 80円
5枚入り 400円
10枚入り 800円

サブレ

くわっ葉サブレ (大葉)
1枚 100円
5枚入り 500円
10枚入り 1,000円

深谷の桑の葉パウダーと熊谷の小麦粉がドッキング。市を超えたコラボ商品です。

くわっ葉サブレ (小葉)
10枚丸ケース 500円

マールフローラサブレ
4枚入り 200円
10枚入り 500円
17枚ケース入り 850円

熊谷産地粉と腸内フローラとのコラボ。16種類の乳酸菌配合。

ミラノサブレ
オリーブの葉入り 4枚入り 400円

ニャおざねサブレ
10枚入り 400円

熊谷市のゆるキャラを製品にしました。アーモンドサブレを基調にプレーンとココアの2種類のお味を。

地粉パン

菓子パン・調理パン
120円~

BBB プレーン 300円
BBB レーズン 400円

NPO 法人くまがや小麦の会



認定 NPO 法人
くまがや小麦の会
代表理事

日向 美津江

昭和21年6月 生まれ。
昭和40年3月 群馬県立前橋女子高校卒業
昭和44年3月 慶応義塾大学商学部卒業
昭和44年4月 ライオン油脂(株)入社
昭和46年 同社退社
昭和48年 (株)平松入社
平成19年7月 同社代表取締役会長就任
熊谷商工会議所女性会会長
埼玉県共助社会づくり推進委員会

「NPOが目指す共助の世界」

◆小麦の会が10周年を迎えることが出来ました。市民団体「くまがや小麦の会」として平成18年12月に“勇気と本気で熊谷活性化”をスローガンに34名の会員での発足でございました。他県より御縁を頂き熊谷に暮し40数年が経ちました。熊谷市が本州一の小麦の生産地であることも、「くまがや小麦の会」を立ち上げるに当たり知った事でした。10年前の熊谷産小麦は農林61号(現在はさとのそらに品種改良)が主流で生産されておりました。熊谷の産業としてすでに定着しているうどん以外の製品の開発で“小麦でまちおこし”と意気込んでおりました会員と熊谷産小麦の地産地消に取組みました。熊谷産小麦は中力粉で強力粉で作るパンの製造には向きません。そこで強化グルテンを重量の2%加えて地粉パンを作りました。薄力粉のあやひかりを使い、パウンドケーキ、シュトーレン、くまサブレ、あつべえサブレ、にゃおざねサブレ、ラグビーサブレ、くわっ葉サブレ等々発売して参りました。市民活動は人と人との触れ合いから、共に助け合い、うねりのような広がりが築かれて来るように思われます。小麦の会の活動の三本柱は 1 熊谷産小麦の普及活動(熊谷市の催事への参加、文化的活動の推進、町おこし、場外教育の実践) 2 ソーシャルビジネスとして地元企業との提携 3 ボランティア活動を挙げております。市の催事を主催される熊谷市役所、商工会の皆様、県の催事では埼玉県県民生活部共助社会づくり課、熊谷市地方庁舎に在籍する北部地域振興センター様の御指導に大きな力を頂きました。

◆平成24年4月にNPO法人くまがや小麦の会として法人化しました。当会の会員は賛助会員(年会費1万円)と一般会員(年会費千円)で構成されております。賛助会員の会費が寄付と認められるので、認定NPO法人への模索を北部地域振興センター様よりご指導を頂きました。認定NPO法人の認定に【絶対的基準値】による方法があり、年に3000円以上の寄附者の数が100人以上いる事が挙げられています。お陰様で100名の賛助会員の登録がございましたので、組織を整え、認定NPO法人の申請を致しました。埼玉県より平成28年3月認可を頂きました。全国に現在5万のNPO法人が存在します。認定を取得している団体は950、全体の2%、熊谷では初めてです。人から人への繋がり、賛助会員124名一般会員114名の会に育てて頂きました。認定NPO法人になる事で、賛助会費を含めて、ご寄附は当会の発行する領収書で税制の優遇措置が受けられます。活動の原資が受けやすい体制が整いつつあります。当会の活動目標をご理解いただき、地域で活動続ける事により、地元をよく理解した「共助」の体制作りが、当会の活動のステップアップした姿に成りたいと考えます。地域はお互いに助け合い根底から盛り上がる力が必要です。

◆NPO法人の活動領域の広がりは官民協働体制による官が成すべきこと、民の方が遂行し易い事を企業ではなく市民活動を原点とした団体が成してゆく事にあるように思います。市民の活力を行政が助け、NPO法人の活動として本来の人と人との係わり合いに「共助」の形で還元される活動領域の広がりを願っております。

小麦の会 特注品のご案内

けんけつちゃんサブレ
熊谷駅献血ルーム サービス品

灼熱のあつべえカレーパン
熊谷商業高等学校

ボン太ドーナツ
熊谷西高等学校

くぬぎサブレ
熊谷高等学校

カルティペードンサブレ
妻沼高等学校

ゆめのすけクッキー
熊谷特別支援学校

NPO法人の社会的役割



NPO 新聞代表
NPO ジャーナリスト
國學院大學ボランティア
コーディネーター

辻陽一郎

プロフィール

慶應義塾大学経済学部卒業後、IT 企業を経て国際ボランティア事業を行う NPO 法人 NICE で広報を担当。

現在は、NPO 新聞などで NPO に関する記事を執筆する傍ら、國學院大学でボランティアコーディネーターを務める。

課題先進国と言われる日本社会で NPO 法人は 5 万団体を超え、事業内容も多種多様になってきました。くまがや小麦の会のように地域に根ざした活動があれば、中東で難民支援を手がけたり、海岸の清掃活動をしたり、セクシャルマイノリティへの支援をしたりなど様々です。しかし、5 万の中には良い団体ばかりではなく年 1 回ほどしか活動してない団体なども存在します。それでは、ボランティアや寄付をするために NPO 団体を探している支援者はその中からどうやって良い NPO を見つけなければいでしょうか。まず見極める基準のひとつは、毎年提出が義務付けられている事業報告書を確認することです。そもそも提出していない団体は論外ですが、実際にどういった活動をしているか報告書で分かります。さらに決算報告書をチェックすると、会費・寄付金・事業収入やどんな支出をしているかも一目瞭然です。しかし、報告書・決算書をわざわざ探して見比べることは大変な手間がかかります。そこでもうひとつの判断ポイントが、「認定制度」です。約 5 万ある団体のなかで、認定を取得している団体は 950 しかありません(5 月末時点)。2012 年に NPO 法が改正、認定要件が緩和されたことで増加しましたが、認定を受けた 950 団体は信頼が置ける団体と言えます。所轄庁から認定を受けるためには、簡単に言えば「年度内で 3000 円以上の寄付金を 100 人以上から集めること」を満たせばクリアです。認定を取得すると様々なメリットがあります。まず一定の基準を満たした団体として位置づけられるため、社会からの信用が高まります。さらに団体・支援者双方にとって税制優遇のメリットもあります。個人で認定 NPO 法人に寄付すると、「(寄付金額 - 2,000 円) × 40%」が減税になり、法人でも損金算入「、でとこるなに定認もてしと体団。つまりあが措置優遇制税たつと大抵の額度限入なし寄附金制度」という優遇措置を活用できるようになります。そもそも NPO とは市民活動が原点であるため法人格がなくても活動はできます。しかし、支援者を獲得したり、活動を継続していったりするためには、行政や企業からの協力は不可欠です。そのために、社会的信用力の証明となる NPO 法人格、さらにその上の認定を目指すことが団体としては大きな目標となるでしょう。阪神淡路大震災の後、1998 年に NPO 法が施行されてからもうすぐ 20 年が経とうとしています。社会がグローバル化、多様化していく中、広く平等にサービスを提供する「行政」、利益を出すことが基準となる「企業」にはできない領域を担う「市民 = NPO」の力は今後ますます必要となっていくでしょう。

行政の出来ない領域に連携をもって取り組んだ事に意義があると考えます。障害者の就労支援を後押しすることで、社会的自律を促す機会が創造されます。地域が障害者に意識を注ぎながら共に、生きてゆく。NPO 法人の活動分野に障害者就労支援はクローズアップされてくる事と思います。

小麦の会の賛助会員 124 名・一般会員 114 名 (平成 28 年 10 月現在)
会員の皆様との絆が原動力です



2013 年 第 7 回定例総会 集合写真



2013 年 ライオンキング鑑賞バスツアー



2014 年 小布施バスツアー



2014 年 春のバスツアー

移動販売車に乗って町に出かけよう

事業概要

当会 16 ヶ所の直売所に納品する作業、催事の販売を養護施設、障害者の方へお願いしてきた。この事業を拡大し、移動販売車に乗って、養護施設、障害者施設の利用者の皆さんと一緒に熊谷産小麦を原料とした小麦の会の製品を販売する。地産地消の推進により地元に着した販売活動を通じ、社会的自立を促すことを目的にコーヒー等も提供できる移動販売車による販売活動で地域住民とふれあいの場を創造する事業

当会の地域では NPO 法人の窓口は埼玉県庁の出先機関である「埼玉県北部地域振興センター」が受け持っている。ここを通じ当会 代表理事の日向美津江は埼玉県庁共助社会づくり課の共助社会づくり推進委員の委嘱を受け 3 年目になる。定期的に実施される共助社会づくり委員会、NPO 法人意見交換会で提案される意見は「養護施設、障害者が社会の中で集う場所が少ない」事が挙げられる。移動販売車による販売活動を通じ、触れ合いの場をこちらから創造してゆく。

熊谷は本州一の小麦の収穫量を誇る地域であり、特産品の小麦を原料にした小麦の会の製品の販売は地産地消の推進により、地元へ寄り添える。

養護施設、障害者施設と情報を共有し、養護施設、障害者施設の催事等に移動販売車で出向き催事の協力を展開してゆきたい。フットワークの良い移動販売車は暖かいコーヒー、パン、パウンドケーキ、電子レンジで温めた地粉焼きそば等が提供できるので地域福祉に活躍できる。

事業計画

①現状と課題

当会は設立以来 10 年になる。直売所が開設され現在は 16 ヶ所になっている。ここへの当会の製品の納入を障害者施設の利用者の方に指導員が付き添い行って頂いている。当会の作業所に製品を取りに来る利用者さんは生き生きと楽しそうであり、指導員にお伺いすると外に出る事が大好きだ。と返答が返ってきた。納入先でも手伝うのだが、直売所は納入先の一部に商品を置かせて頂いているので、時としては邪魔にされることもある。この作業は継続するとして、当会の裁量で販売でき、外部との触れ合いが持てる事としては、移動販売車での販売活動が地域住民との触れ合いも有るので恰好な事業と考える。

②単年度の課題

移動販売車はリースして、展開してゆく事業であり、販売先は①当会の 10 年間培った連帯団体の協力を基盤にした、定期巡回ルートの開拓 ②当会の参加地元催事での販売 ③養護施設、障害者施設の催事に参加 ④連携団体のショッピングセンター駐車場での販売が考えられる。ワゴン車の改造費、移動販売車の維持管理費、参加する養護施設、障害者施設の利用者さんへの報酬が採算点に達するかが単年度の課題。単年度を助成金で後押しをして頂ければ、2 年度、3 年度と巡回ルートが確立してくるので継続は可能と思われる。養護施設、障害者施設の利用者が地域社会との触れ合いを自ら仕掛けてゆく点に本事業の優位性を見出したい。

柱立て 1：移動販売車による定期巡回訪問販売

実施団体知的障害者施設「わーくほーむ結」が毎週定期訪問を実施

- JA 箱田くまがやふれあいセンター
- JA 江南くまがやふれあいセンター
- 妻沼道の駅「メロッド」
- 熊谷市役所「市民食堂」

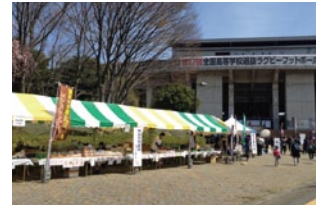


柱立て2：移動販売車による当会参加、地元催事での販売活動

実施団体養護施設「雀幸園」
 障害者施設「埼玉福興株式会社」
 NPO法人くまがや小麦の会会員

来場者数

4月1日 全国高校選抜ラグビー大会 熊谷スポーツ文化公園 5,000人



4月30日 友山祭り 大里根岸邸長屋門 600人



6月4日 江南蛸祭り ピピア 20,000人



7月30日 大里夏祭り 大里行政センター 5,000人



8月14日 熊谷盆踊り 熊谷コミュニティー広場 2,000人



9月17日 アルディージャ戦 熊谷スポーツ文化公園 20,000人



10月3日 明神市 高城神社 500人



10月16日 にゃおざねまつり 熊谷コミュニティー広場 5,000人



10月30日 熊谷市県立高校8校スイーツ文化祭 八木橋 9,000人



10月30日 江南祭り ピピア 20,000人



11月19日 熊谷産業祭 熊谷スポーツ文化公園 30,000人



12月18日 ベアリスマラソン大会 立正大学 5,000人



3月19日 熊谷さくらマラソン大会 熊谷さくら運動公園 10,000人



柱立て3：養護施設、障害者施設での催事に移動販売車で訪問して催事に協力する

実施団体知的障害者施設「わーくほーむ結」「わーくほーむ江南」成人式
 養護施設「雀幸園」地粉焼きそば出張講習会・クリスマスパーティー
 クリスマスコース発表 1年かけて小麦の会会員が雀幸園園児のコーラス指導にあたりました
 NPO法人くまがや小麦の会会員



柱立て4：移動販売車によるショッピングセンター駐車場での土・日販売

実施団体養護施設「雀幸園」
 NPO法人くまがや小麦の会会員



6月30日 実施	400	7月17日 実施	400	8月7日 実施	400
7月1日 実施	400	7月18日 実施	400	8月21日 実施	400
7月2日 実施	400	7月23日 実施	400	9月4日 実施	400
7月3日 実施	400	7月24日 実施	400	9月11日 実施	400
7月9日 実施	400	7月30日 実施	400	9月18日 実施	400
7月10日 実施	400	7月31日 実施	400	9月25日 実施	400
7月16日 実施	400	8月6日 実施	400	20回実施	延 8,000

柱立て5：新規連携障害者施設の移動販売車事業への参加も募る

埼玉福興株式会社

代表取締役
 あらい としまさ
新井 利昌さん



柱立て6：移動販売車で販売する商品の開発

ミラノサブレ (オリーブサブレ)

新規連携障害者施設の移動販売車事業への参加をした埼玉福興株式会社が障害者就労支援で小豆島からオリーブを移植してオリーブ園を運営している。このオリーブオイルは世界が認め金賞オリーブオイルを獲得した。このオリーブの葉を粉にした商品を開発している。オリーブの葉を混ぜ込んだサブレを「ミラノサブレ」として小麦の会で製品化した。



連携団体

連携団体名 ※正式名称で記入	内諾 の状況 1. 有 2. 無	活動 分野	要望事業における連携（役割分 担）の具体的な内容（今事業で担当 する地域も含め具体的に記入）	連絡先	
				住 所	
				電話番号	担当者名
法人格 税理士法人 団体名 吉田桜井税理士事務所	1	経 理	当会の副会長の経営する会社であり、当会の経理から見た運営を毎月試算表で検討頂く。本事業の健全運営をサポートする。	埼玉県熊谷市箱田 2-2-8 048-521-0334 吉田嘉高	
法人格 学校法人 団体名 熊谷特別養護学校	1	養 護 学 校	当会の企画した熊谷市県立高校スイーツ文化祭に参加して、学校のオリジナル製品を開発した。移動販売車定期的訪問先に参加	埼玉県熊谷市川原明戸 605 048-532-3689 大竹聡	
法人格 社会福祉法人 団体名 雀幸園	1	障 害 者 施 設 ・ 養 護 施 設	当会の運営委員であり、養護施設、障害者施設の利用者に現在も当会の催事販売、当会オリジナル地粉焼きそばの製造、箱作りにも参加している	埼玉県熊谷市四方寺 185 048-525-2880 新木弘子	
法人格 社会福祉法人 団体名 つゆくさ	1	障 害 者 施 設	当会賛助会員であり現在も当会の直売所への製品搬入作業を受け持っている。移動販売車の販売に参加	埼玉県熊谷市板井 925-2 048-536-9074 緒方義憲	
法人格 学校法人 団体名 立正幼稚園	1	幼 稚 園 経 営	当会賛助会員。運動会に移動販売車訪問して、売店を設営させてもらう。当会の会員のお子さんは立正幼稚園の卒園生が多い。	埼玉県熊谷市楊井 1740-2 048-536-1688 高橋義尚	
法人格 特定医療法人 団体名 熊谷外科病院	1	医 療	当会賛助会員。熊谷を代表する大型病院定期的な移動販売車の立ち寄り先に見込む。	埼玉県熊谷市佐谷田 3811-1 048-521-2355 山崎望人	
法人格 医療法人 団体名 くぼじまクリニック	1	医 療	当会賛助会員。6ヶ所のクリニックを展開している。に見込む定期的な移動販売車の立ち寄り先に見込む	埼玉県熊谷市久保島 1785-2 048-533-7511 大島譲二	
法人格 協同組合 団体名	1	直 売 所 農 産 物	当会賛助会員。直売所を店内に設けて頂いている。5ヶ所の直売所を展開している。定期的な移動販売車の立ち寄り先に見込む	藍玉県熊谷市箱田 5-8-2 048-521-6061 福田征芳	

アンケート

1. 移動販売車による定期巡回訪問販売			
利用者・参加者	回答者数	回答率	
11	11	100%	
とても満足	満足	やや不満	不満
36%	45%	19%	0%
満足・不満足の主な理由			
◆満足			
1.小麦の会の事務所で商品をそろえるのが楽しい			
2.班x梅者に乗って出かける事が楽しい			
◆不満足			
2. 移動販売車による当会参加、地方催事での販売			
利用者・参加者	回答者数	回答率	
24	23	96%	
とても満足	満足	やや不満	不満
25%	63%	12%	0%
満足・不満足の主な理由			
◆満足			
1.日当でお昼に出店しているお店を回り買い物する事が嬉しい			
2.ソフトクリームが上手に作れてお客様に売れる事がいい			
3.お客が多く、賑やかで、催し物も楽しめる			
◆不満足			
①.時間がおそくなる			
4. 移動販売車によるショッピングセンター駐車場での土・日での販売			
利用者・参加者	回答者数	回答率	
12	12	100%	
とても満足	満足	やや不満	不満
0%	45%	55%	0%
満足・不満足の主な理由			
◆満足			
1、販売が順調な時は満足			
◆不満足			
1..お客が素通りして売れない			
2.販売時間が長い			

自己評価

I 事業目標と成果について

【当初計画で設定した目標とその達成状況】

①移動販売車による定期巡回訪問販売		
売上	5000円/回の売上X3回X5ヶ所X4週X12ヶ月＝	3,600,000
粗利益	3600000X40%＝	1,400,000
人件費	3000円/人X2人X12回/月X12ヶ月＝	864,000
謝金	2000円/回X12回X12ヶ月＝	248,000
車の維持費(燃料代含む)	5000円X12ヶ月＝	60,000
車のリース料金	42000円X12ヶ月＝	504,000
収益		-276,000 A

②移動販売車による当会参加、地元催事での販売活動(移動販売車による増加売上げ分)		
売上	10,000円/回X2回/月X12ヶ月＝	240,000
粗利益	240,000X70%＝	168,000
人件費	3000円X2人X2回/月X12ヶ月＝	144,000
謝金	2000円X2回X12ヶ月＝	48,000
収益		-24,000 B

④移動販売車によるショッピングセンター駐車場での土・日販売		
売上	8日/月X30000円/回X12ヶ月＝	2,880,000
粗利益	2,880,000X40%＝	1,152,000
人件費	3000円/日X2人X8日X12ヶ月＝	576,000
謝金	2000円X8日X12ヶ月＝	192,000
収益		384,000 C

合計収益：A+B+C＝ 84,000 年間見込み

【目標の達成状況】

①移動販売車による定期巡回訪問販売	0
②移動販売車による当会参加、地元催事での販売活動(移動販売車による増加売上げ分)	77,970
④移動販売車によるショッピングセンター駐車場での土・日販売	33,168
	111,138 実績

【自己評価】

養護施設、障害者施設の利用者の皆さんが移動販売車に乗って町に出かけ、販売を通して、地域社会との触れ合いの場をこちらから創造する。障害者の社会的自立を促す目標に向えたと判断する。事業途中で障害者就労事業に取組む、埼玉福興株式会社さんと提携できたことが今後の事業展開に広がり期待できる。合計の収支で言えば、目標の132%の着地となったが、柱立て別に考察すると、ショッピングセンターでの土・日での販売が目標を大きく外れた。ショッピングセンターへの来客は地元商品だからと言って購入には繋がらなかった。地元催事での販売は熊谷産小麦の製品が購入に大きく繋がった。参加した利用者は環境の変化を楽しみ、大きな声を張り上げて販売を行った。僅かながらではあるが謝金の提供も有効であったと考える。この事業は小麦の会の中心事業として、今後も継続してゆき、障害者の社会的自立の一助となりたい。

【単年度の効果】

養護施設、障害者施設の利用者の皆さんが移動販売車に乗って町に出かけ、販売を通して、地域社会との触れ合いの場をこちらから創造する。障害者の社会的自立を促す目標についてはアンケートでも、とても満足・満足と回答した方が71%であり、事業への参加は受け入れられた。障害者施設、養護施設共に賃金体系は同一にした。参加を喜んでくれている。知的障害のある方が販売の講習を受けていることは社会的自立の一歩と思った。

II 連携について

小麦の会設立以来10年が経過している。この間に築き上げた賛助会員(団体)が移動販売車に乗って町に出かけよう事業の遂行に連携して、一致協力をした。これは10年の月日が形成した連携であり信頼関係の構築が有効に働いた。

当事業を小麦の会の主幹事業として取り組み、障害者の社会的自立に繋げたい。